

行動

1439

吳鎮守府第六八〇ノ七

大正十三年二月二十七日

吳鎮守府司令長官竹下勇

海軍大臣村上格一殿

第一課

駒橋第十八潜水艦曳航行動豫定ノ件

官房機密第二九號訓令ニ係ル軍艦駒橋第十八潜水艦曳航行動ヲ左記ノ通豫定致候右報告ス

左記

三月一日

吳 發

二日

佐世保着

三日

佐世保泊曳航準備

四日

五日

佐世保發第十八潜水艦

曳航

七日

吳着

天候其他ノ故障ニ依リテ豫定ヲ變更スルコト
アル云々

(續)

公報

海軍

○軍務局航行動線定

着

茶

横濱

三月十日

足

三月十日

十四日

江田島

十四日

十五日

佐世保

十七日

二十日

館原(長門)

二十三日

二十五日

横濱

二十七日

軍務局

毎月拾日 公報掲載

公報

軍務局

年月拾日

大	青	函	針	室	大	地名	◎軍報掲載案 日行動予定
港	森	館	路	蘭	湊		
三月十五日	三月十三日	三月十二日	三月九日	三月六日		着	発
	三月十五日	三月十三日	三月十一日	三月八日	三月六日		

海軍

輕便

次官

軍務局

大正十三年三月時 律司海軍省 友

日新報社社長

大正報社社長

三善為重社社長

第一課 三井物産社社長

以迄海軍省社長

古河電氣社社長

西澤公館主 西澤公雄家 (支那大沽)

第二師官隊長 江筋巡視官 同件

本年三月下旬 四月中旬 到 期間 第二師官隊長

旗幟 北 及 紀 巡 於 十四 隻 長 江 巡 視 下 十 五 年

皆 就 之 隊 物 上 自 然 上 海 古 京 蘇 州 九 江 大 沽 漢 口

第一號

海軍

藤田



各地に於て貴社（西澤家之公貴殿）ノ御力カ
~~知~~云場~~云~~ノ~~一~~可~~ク~~多~~ク~~ 秘~~カ~~知~~ル~~ノ~~由~~ 秘~~カ~~知~~ル~~ノ~~由~~ 秘~~カ~~知~~ル~~ノ~~由~~
~~ハ~~意~~ウ~~得~~ル~~度
~~秘~~知~~ル~~ノ~~由~~ 秘~~カ~~知~~ル~~ノ~~由~~ 秘~~カ~~知~~ル~~ノ~~由~~

(秘)

牛一~~カ~~ニ~~テ~~美~~ノ~~味~~ハ~~不~~レ~~化~~ス~~ト~~シ~~ 効~~ハ~~果~~ト~~ス~~ル~~人
各事~~ハ~~ナ~~リ~~

大正十三年三月十日

津浦海軍有別友

陸軍海軍有別友

(支那上海西華中法各埠支店)

(支那支店)

大正十三年三月十日 發着

抄紙

第百號抄紙一書友金一印使徒少勤杯在慶望
第百號抄紙一書友金一印使徒少勤杯在慶望
第百號抄紙一書友金一印使徒少勤杯在慶望
第百號抄紙一書友金一印使徒少勤杯在慶望
第百號抄紙一書友金一印使徒少勤杯在慶望

抄紙

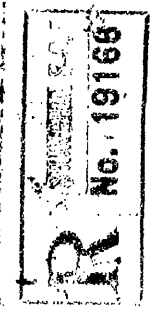
大日本帝國

東京市霞ヶ関海軍省

藤田副官殿

封

1447



封

上海西華英路

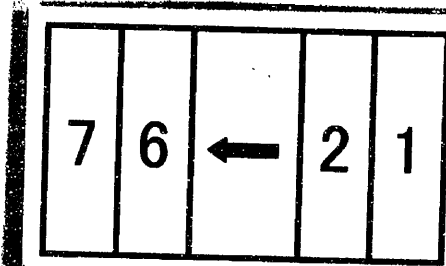
五号 趙呈 趙殿

海軍省 務課 乙号

二月二十七日



分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の 撮影順序</p>	 <p>The diagram consists of a horizontal row of five rectangular boxes. The boxes contain the numbers 7, 6, 2, and 1 from left to right. An arrow points from the box containing the number 2 to the box containing the number 6. The entire row of boxes is enclosed in a larger rectangular frame.</p>
<p>分割撮影 した理由</p>	<p>A 3 版 以 上 の た め</p>
<p>上記のとおり分割撮影した事を証明する。</p>	

福也

平素御無事

のみ打過す指珠

に中御會立 缺礼の

罪平白而海客賜は

り及而輕中上候

尋常料味遊也

而地中凌す難く事

と遠路罷在り一處

中陰り子而難く事

之れ如而何人か

降之 迂儀 頑健 眼弱

罷在る旨の條子

中若慮 能く及り

却説 旨の旨

1448
1449
1450
1451
1452
1453
1454

降を 運儀 頑健 眼翳
罷在 道の 留 上 録 了
中 有 慮 訪 り 及 び
却 説 言 下 旬 了
四月 中旬 に 至 る の 期 曾
に 旅 乞 筈 二 有 皆 我
隊 旗 程 北 上 及 馳
而 飛 十 四 日 又 愈 楊
子 江 巡 航 船 法 行 了
る 事 事 了 各 年 迄 行 就
三 日 上 海 漢 口 定
泊 也 勿 論 南 京
蕪 湖 九 江 大 沈 等
の 各 寄 航 地 に 於 ち
自 然 左 記 各 地 の 特
別 便 宜 に 堪 へ ず 亦 人
得 たる 所 尋 々 存 之
心 文 二 存 せ ら ぬ 記 に 付 け

の各寄航地に於て
自然左記各航の特
別便宜に與ふるべし
得ざる由 尋ら存之
べしと存せらるるに付
此の際 本局若くは
軍務局 邊より以
等在京本社に於て
第二之層航路寄
航の際格段の配慮
を乞ふ旨 依頼し置
本社より各支店へ航
通状有之様 御計
置下され候へば
地支店に於て一層身
を盡し 諸便宜提供
に努力し是れを以て
之思考置候に
從前 新航の際に

地と在に於ては一層身
味下北と諸便宜提供
に努力し是れ小Pに
之思考を成せし
旋身 新標の際に
本社との疏通ありし
為め上段の思はく
を慮りて當方の依
頼に對し迄進むる等
能く交わありしに於て
及んば皆之を念
の爲め 右御配慮を
而能くかたき出牙に

左記

上海

- 日本郵船會社
- 大阪商船會社
- 三菱商事會社
- 三井物産會社
- 日清汽船會社

五祀

上海

日本郵船會社

大阪商船會社

三菱商船會社

三井物産會社

日清汽船會社

南滿洲鐵道會社

南系

日清汽船會社

(上海支店と
既由せしむ)

燕湖

南系に合し

九江

南系に合し

大沽

西澤公館

西澤公館

(此方より手紙に依頼す
ハナハ貴方より一書も
ハ出さず得んハ一層好相
ト存し美)

漢口

上海に合し

但し南滿洲鐵道會社

南系に合し

九江

南系に合し

大沽

西澤公館

西澤公館

(此方より手紙に依頼す
ハナハ貴方より上書も願
ひ出書得んは一層好相成
と存し美)

漢口

上海に合し

但し南滿洲鉄道分社

に附く

先年北 宜賀 御意

料の上 亦即 慮 亦 概

中 亦 亦 亦 亦 亦 亦

何 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦

但し南滿洲鉄道會社

附録

先年北 皇家 御裁

料の上 而即 爲慮 而取

中 其後 以 及 而 能 行

何 卒 時 節 柄 爲 是

當 自 是 年 之 二 月 起

後 亦 上 等 心 也

物 有 自 由 也

二五二七〇

核 概 乙 方 行

藤田海軍省副大臣

藤田 啓下

軍務局

四月廿五日

別紙
公報

本報第四六號二

大正十三年四月十五日於馬公

大井艦長

海軍省副官殿

第一課 行 動 件

本艦補充交代並巡航準備、為来二十五日馬公發二十八日吳着五月二十八日頃吳着、予之候

有之候

存通知ス

追々別紙巡航予之表公報、掲載方御取

并々得喜又

(別紙巡航予之表)

送

海軍省

軍務局

大正十三年軍艦六井巡航豫定表

地名	著月日	發月日	碇泊日数
馬公		六一五	
香港	六一六	六一〇	四
海口	六一一	六一三	二
北海	六一一	六一六	三
海防	六一一	六一一	四
西貢	六一二	六一九	五
盤谷	七一	七一五	四
新嘉坡	七一八	七一四	六
バタビヤ	七一六	七一〇	四
サマラン	七一	七一五	四

計	馬 公	馬 尾 刺	イ ロ イ ロ	メ ナ ド	マ カ ツ サ ー
	ハ ー ニ 〇	ハ ー 一 ニ	ハ ー 九	ハ ー 三	セ ー ニ 七
		ハ ー 一 ハ	ハ ー 一	ハ ー 七	セ ー 三 一
五 三		六	二	四	四

大正十三年三月三十一日起案

起案者 捺印

四月十五日發付

發付掛 捺印

發付後起 案者捺印

() 軍務局長

第一課長

大臣

次官

參事官

副官

軍需局長代

西

第一課長

西

機關局

第一課長

第一課長

艦政本部

第一課長

總務部長

下 第四部長
第五部長

經理局

大正十三年四月吉日

大臣

吳鎮第二號ノ一二ノ二上申第三隊備特致艦攝津

出動ノ件認許ス

所費費用軍備制限諸費主力艦解休費支并其額

軍令	水路	臨建	教育	造船	技術	法醫	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
														受月日 發月日
														四月四

經理局 13.4.14 受

1458

1000000000
集一府軍需部
彈換供給
セロソ
シ

野村煖科及行動用招集云々

(終)

1459

吳鎮守府 第二號ノ一ノ一

大正十三年三月二十日

吳鎮守府司令長官 竹下 勇

海軍大臣 村上 格 一殿

第三豫備特務艦投達出動件

軍務局

第三豫備特務艦投達、兵器撤去残存事、並官房機密

第一七號訓令之年、末、四月二十日、以、後、之、豫、定、之、有、之、假、

就、左、記、豫、定、以、自、左、修、正、運、動、力、檢、測、速、力、試、驗、

由、其、施、致、度、日、同、艦、長、上、申、有、之、候、條、件、認、許、相、成、度、

由、之、要、之、燃、料、消、耗、品、等、豫、算、并、取、付、力、申、請、議、議、ヲ、得、度、

右、上、申、ス、

左 記

軍需局

官房第

一〇八二號

四月二十一日

官房受 三月廿一日

四月二十四日
自差修正
量運動力検測

合上所要燃料
六二
（作業者海面迄）
（回航用も含む）

四月二十四日

標柱間運力試験
合上所要燃料
四七八
（作業者海面迄）
（回航用も含む）

合
二十六日

所要燃料総計

六四〇
（B₂ = 換算）

右の對する消耗品

四百九拾九
（式拾錢）

640 + 100 = 740

540
25

320
128

16,000 円

(終)

自差修正運動力検則
標柱間速力試験

二四〇
一六二
} 四〇二

402
235

2010
1206
804

94470

模造半葉十一行野紙

海軍

1462

起案辨紙

大正十三年四月十九日 起案者 捺印

四月十九日 發付 捺印

發付後起案者捺印

軍務局長

第一課長

大臣

副官

藤田

洪

次官

參事官

藤村

局長

小澤

田中

局部 受月日 發月日

官房 抄 捺印

巴 九

大正十三年四月十九日

大臣

舞舞要機密第二錦ノ九上申第二豫備艦出二動
一件認許ス

番號

官房第一ノ二錦ノ

軍令 水路 臨建 教育 造兵 技本 法務 經理 醫務 機關 艦政 人事 軍務 官房

1463

海軍要港部

大正三年四月十五日

舞鶴要港部司令官百武三郎

海軍大臣村上格一殿

第二豫備艦出動ノ件

京都博覽會主催軍艦觀覽團體便架ノ爲

左記日割ニ依リ春日ノ夜津ニ出動セシメ度ニ付御認

許相成度

右上申ス

左記

四月廿六日 同廿七日 五月十日 同十三日

終

海軍

海軍

紙 界 案 起

大正十三年 五月十日 起案

起案者 捺印

五月十日 日發付

發付者 捺印

發付後起

起案者 捺印

付

軍務局長

第一課長

大臣

次官

參事官

副官



大正十三年五月十日

大臣

吳鎮第一九四號ノ四上申第三線備驅逐艦出
動ニ関スル件認許ス

番 號

官房第一〇一號

軍令	水路	臨建	教育	勸業	技本	法務	經理	農林	機關	郵政	人事	官房	局部
													五月十日發付

1466

吳鎮守府
一九四號

大正十三年五月七日

吳鎮守府司令長官 竹下

海軍大臣 村上 格 殿

第三機備驅逐艦出動ニ關スル件

來六月上旬第十七師團ニ於テ施行ノ師團上陸演習ニ艦船派遣方同師團ヨリ協議有之候處本府ニ於テモ海陸協同作戰演練ノ好機會ト認メラレ候ニ就テハ左記豫定ヲ以テ第十一驅逐隊ノ中追風、初春ノ二隻ヲシテ準備訓練及右演習ニ參加ノ爲出動セシメ度候條御認許相成度

右 上 申 ス

追テ本行動ニ要スル燃料及消耗品ハ本府既配付豫算内ニテ處辨可致候

記

官房第一課

自五月二十日 至六月十日	自差修正、其ノ他演習参加準備訓練ノ爲廣島灣安 藝灘備後灘出動
自六月十四日 至六月十九日	演習参加ノ爲廣島灣安藝灘備後灘出動
	終

至急

車務局

三三編

大正十三年五月十四日 横須賀

廣瀬滿州艦長

増澤海軍少将第一課長殿

早艦測量任務に關スル件

本艦測量任務に關スル行動ハ天候其ノ他ノ

顧慮ニ別紙ノ通豫定致度ニ付同行行動ニ

関スル訓令至急及令方御取計被下度

右御依頼ス

(別紙一葉添)

司令室 田中

(誤)

自大正十三年五月八日軍艦滿州測量作業行動豫定表

月	日	曜	行	動	作	業	行	動	日	数	距	離
五	二四	土	横須賀	発								
六	二九	木	アブレオジヨス	着	アブレオジヨス	探			一		940	
六	二七	土	佐世保	着	炭水補給				一		650	
一	一〇	火	全	右	炭水補給				一		500	
一	一三	金	全	右	炭水補給				一		500	
一	一五	日	津總南方測量地	着	炭水補給				一		500	
二	二二	日	全	右	炭水補給				一		500	
二	二七	金	横須賀	着	炭水補給				一		880	
七	二二	水	全	右	炭水補給				一		880	
一	四	金	紀州南方測量地	着	炭水補給				一		350	
一	一四	月	全	右	炭水補給				一		380	
一	一六	水	横須賀	着	炭水補給				一		380	
二	二〇	日	全	右	炭水補給				一		380	
二	二一	月	ベオネ入測量地	着	炭水補給				一		210	
三	三一	木	全	右	炭水補給				一		210	
八	一	金	横須賀	着	炭水補給				一		210	
四	四	月	全	右	炭水補給				一		120	
四	四	月	野島津測量地	着	炭水補給				一		120	
一〇	一〇	日	全	右	炭水補給				一		120	
一〇	一〇	日	横須賀	着	炭水補給				一		120	

(終)

軍務局

水第 四二七號

大正十三年五月十九日

第一課

海軍省軍務局長 小林 鑄造 殿

水路部長 内田 虎三

艦船行動豫定ノ件

艦船ノ航海巡航等ヲ利用シ航海資料ノ調査ヲ依頼シ又要スレバ當部ヨリ資料
告示等ヲ通報スル必要有之候ニ付艦船航海ノ際ハ其ノ行動豫定ヲ當部ニ通報
スル様御取計ヲ得度

右照會ス

東志船海(川)航業ノ事業ニ海軍省報告ニ之ノ知悉ニ付之(終)

川合水路部別省ニ以テ報告

軍第二九五號

石川 總

1472 18.6.2

紙 界 案 起

大正十三年五月十九日起案

起案者 捺印

五月二十一日發付

發付印 捺印

捺印

發付後起 空音捺印

捺印

局部 受月日 廿日

18.5.21

大臣

次官

參事官

副官

藤田

教育局

局長

局長

局長

軍令	水路	臨建	於育	造兵	技本	法務	經理	農務	農政	人	軍務	官房	局部
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----

五三〇

1473

大正十三年五月二十一日 大臣

五月十七日進達 富士教機密第一七號上申行動

ノ件認許ス

號番

官房第五六五號

一

一

司令長官
参謀長

参謀
官

横鎮
13.5.15

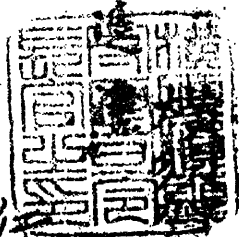
大正十三年五月十四日横須賀

機関長

運用術練習官
富士

長持
富士

五月十七日



人事部長
内三郎殿

行動ノ件

運用術練習生並海軍大学秋航海学生実習ノ為
左記通り行動致シ度候條御認許相成度
右ノ上申ス

左記

1475

横須賀 吳 長崎 上 佐世 德山 大坂 横須賀 港灣名

六月二十一日
 六月二十五日
 六月二十七日
 六月二十九日
 六月三十日
 七月五日
 七月九日
 七月十日
 七月十一日
 七月十二日
 七月十三日
 七月十四日
 七月十五日
 七月十六日
 七月十七日
 七月十八日
 七月十九日
 七月二十日
 七月二十一日
 七月二十二日
 七月二十三日
 七月二十四日
 七月二十五日
 七月二十六日
 七月二十七日
 七月二十八日
 七月二十九日
 七月三十日

三四七、〇
 三一四、〇
 一八七、〇
 四六八、〇
 四一八、〇
 六三三、〇
 二八三、〇
 五一〇、〇

二四一六、〇

炭費(船)

記
事

(終)

起案郵紙

大正十三年六月二十三日 起案

捺印

第一課長

捺印

發付

發付後起案者捺印

15

起案郵紙甲

() 軍務局長

第一課長

大臣

副官

藤田

洪

局員

次官

局部	受月日	發月日
官房	六月廿	六月廿
軍務		
人事		
艦政		
機關		
醫務		
經理		
法務		
技本		
廣兵		
教育		
臨建		
水路		
軍令		

大正十三年六月二十五日 大臣

法鎮機密第一五號ノ五四上申 疆逐禮 革出 勳
ニ関スル件認許ス

號番

五五六一

佐世保鎮守府司令長官 藤 恭 重

大正十三年六月十九日

海軍大臣 財政部 彪 殷

藤 恭 重

驅逐艦 董出動ニ關スル件

第二豫備驅逐艦 董復水器懸垂装置新
設工事本月下旬竣工ノ豫定ニ付七月上旬
ニ於テ二日間試運轉ノ爲同艦ヲ佐世保港
外ニ出動爲致度候條御認許相成度

右申上ス

(終)

一九二〇

五月廿九

司令官

秋本

濟

副官

佐世保

水

大

大

大

大

大

佐世保海軍工廠

第七號

一九二四年六月廿五日

信保

正十三年六月廿五日

佐世保海軍工廠長 岡崎貞伍

海軍大臣 財部 彪 殿

海軍大臣 財部 彪 殿

海軍大臣 財部 彪 殿

海軍大臣 財部 彪 殿

海軍大臣 財部 彪 殿

海軍大臣 財部 彪 殿

第一課

軍艦金剛行動支障ノ件

軍艦金剛破損推進器換裝ノ爲左記期間内本艦行動ニ支障有之候條艦船造修試験検査規則第五十四條ニヨリ

右報告ス

總務部

着

大正十三年六月十九日

六月廿九日

竣工全

六月廿九日

B.7.8. 沼

B.7.1

第一課
第二課

二十日午前九時
山城便了リ
徳山發ノ日向

海軍省副官

(佐伯) 聯合艦隊副官

一三、七、一七
前二九一一七〇
佐伯 海軍省着

四
三

大正十三年七月二十二日起案

起案者 捺印

七月二十三日發付

捺印

經理局 19.7.31

13.7.28

發付後起 捺印

19.7.28

軍務局長代 第一課長

大臣院

副官

藤田

洪

次官

參事官

局員

局員

人事局 第一課長

局員

軍需局長

第一課長

第二課長

經理局

第一課長

第一班

大正十三年七月二十日

吳鎮長官宛

二十一日電稟第十一駆逐隊臨時出動ノ件認許

不

番

官房第二九五號

毎

1482

軍務局

大正十三年

七月三十一

日午 十一時五十七分

吳海軍局發

日午 十二時三十分

海軍省着

發信者 吳鎮守府司令長官

受信者 大臣

電報譯

第十二駆逐隊菊月、水無月、張出軸承
 修理、為出勤不能又残余、本隊ハ八月
 五日ヨリ、日迄第十二師團 要塞聯合演習
 参加、為吳佐伯間通信艦發差ニ差支アリ
 第三号備駆逐艦タル第十一駆逐隊中ノ
 二隻ヲ臨時出勤セシメ度御認可アリ度

海軍

機密牛葉十三行算紙



軍務局

滿洲總督 二五〇三

大正十三年七月十九日 大權頂質

滿洲艦長 廣瀨 豊

海軍省 副官 殿

第一課

滿洲州行動豫定表

一葉

右送付又

(別紙二葉送)

(殿)

海軍

納品書

1485

軍艦滿州行動豫定表(三六七二九)

地 名 着 迄

横 須 賀 七月三十一日

アブレオシヨス 八月四日 八月九日

紀州南方測地 同 十一日 同 十三日

ベネニス測地 同 十四日 同 十六日

横 須 賀 同 十七日 同 十九日

野島沖測地 同 二十日 同 二十四日

横 須 賀 同 二十日

但し作業進捗、操採ニヨリテ八野島沖測量ノ
繰上テ施行スルコト也(シ)

(続)

起案部紙

大正十三年七月十四日起案
起案者 捺印

七月十三日發付
捺印

發付後起
案者捺印

(主) 事務局長 第一課長

大臣

次官

參事官

副官 藤田

局長 小林

艦政本部

總務部長

第一課長

第二課長

經理局

第一課長

教育局長

第二課長

職員

大原

大正十三年七月三日

第一班

横領上長官宛

大臣

特務極朝日三閣三件

官房第二〇二〇號

13.7.21

13.7.21

13.7.1

1917.8

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
														受月日發月日
														七二五

1487

特務艦朝日、旧軍一極安藝、薩摩ノ標的トシテ研究射撃ノ中一委員委員附又視察見学者等、乗艦トシテ聯合艦隊司令長官、（通）ニ受ケルニ標的計ノヘレ
右訓令ス
指揮

大正十三年七月廿日

大正十三年七月廿日

大臣

聯合艦隊長官宛

大正十三年七月廿日發布

特務艦朝日ニ関スル件

本件ニ関スル別紙ノ通横須賀鎮守府司令長官、訓令セリ此方心付ヘシ
右通達ス

別紙一葉係

軍務局

第一課
第二課

八日午前八時頃
駿逐艦便アリ

海軍省副官

聯合艦隊参謀

一三、八、五
前九
右一
三〇

長門
着

1933. 9

1489